

中入り前の一番で大石丸は磯蛸と対戦。立ち会いから右の押っ付けで攻め立て、しつかりまわしを引いて正面土俵に寄り切って1敗を守った。千丈岳、日向藤が共に敗れたため優勝は大石丸、鳥海波に絞られた。

そして迎えた千秋楽、2敗は3敗と優劣争いから脱落した日向藤と対戦し、同体で取り直しとなった一番で立ち会いから一気にのど輪を押し倒しに破り2敗を押し倒し大石丸の結果を待つ。

大石丸は3敗の千丈岳と対戦。勝てば優勝、負ければ決定戦となる一番。互いにつぶり四つの立ち会いから千丈岳がのど輪を差し込むと、そののど輪をものど輪を差し込み押し倒しに沈め見事優勝を果たした。

この優勝で大石丸は先場所の悔しい思いを晴らして、来場所は堂々の入幕となる。その他入幕出来そうなのは三枚目で8勝を上げた音柱、四枚目の伊勢旭、六枚目の若雲山、さらに準優勝の鳥海波あたりか。そして下位では椿富士、虹ヶ谷、帰りの十両の若草山、新十両の虎麒麟、磯雷光が残念ながら陥落となり、幕下からの出直しとなった。

春日根部屋は連覇で幕を閉じた今場所、兄弟部屋は伊勢之山部屋を含め勝ち越した力士は入幕しそうな事から、ただひとり負け越した玉乱だけとなり他の部屋の活躍で春日根三連覇阻止に期待がかかる。

(香具山)



大石丸○(押し倒し)●千丈岳



鳥海波○(押し倒し)●日向藤



大石丸○(寄り切り)●磯蛸

幕下は松錦、松ヶ神部屋復興の狼煙に

優勝争いは松錦と紅の華の一騎打ち。松錦が立ち会いから紅の華に全く力を出さず向正面に一気に寄り切りで優勝を決めた。

松錦の優勝は161回場所の三段目に続き、幕下では初めての優勝となる。十両昇進にはあと一歩届かないが、来場所は悲願の関取誕生となる。松ヶ神部屋は悲願の関取誕生となる。松ヶ神部屋は悲願の関取誕生となる。

既に勝ち越しを決めており、今日勝てば大松戸部屋としては灘吉山以来の関取誕生の悲願を背負った出雲山。勝てば十両昇進がほぼ確実なところ。

対戦相手はこちらも錦風親方の秘蔵っ子の栃尾山。勝負は栃尾山の真っ直ぐな寄りに屈し、十両昇進は十両からの陥落力士次第という状況になった。

そして秋田親方にとつての一番、西二枚目の達子波と柏陵山の対戦。勝てば希望の十両入りが決まるとあって場内は達子波への声援一色。柏陵山にとつては完全アウェーな状態。

秋田親方も固唾を飲んで土俵を見つめる中、立ち会いの達子波のど輪攻めを警戒した柏陵山がすぐに左を差して寄り切りで勝負がついてた。この一番のために観戦に訪れたと言っても過言ではないだけに、来場所以降に再度巻き返してほしいところだ。



達子波●(寄り切り)○柏陵山



栃尾山○(押し倒し)●出雲山



紅の華●(寄り切り)○松錦

三段目、序の口

意外な結果だったのは、優勝候補にも上がっていた伊勢之里が千秋楽も太刀錦に引き落とされてまさかの1勝4敗。部屋は移籍が影響したかは定かではないが、来場所は再び三段目からの出直しとなる。

また、負け越してすでに廃業が決まっていた鶴乃里に続いて、元幕内の西安にも土俵人生にピリオドが打たれた。(山里)

三段目は全勝で逆本と笹熊が対戦。逆本は初土俵以来の協会新記録15連勝を賭けての一番だったが、大熊部屋の新記録ならず。

東筆頭で勝てば新幕下の松ヶ神部屋の碧錦幕下だったが、同じく勝てば幕下復帰の可能性が波山に敗れ涙を飲んだ。

序二段では九十九部の森倉が桃山部屋の桃天龍を下し、序の口優勝以来の優勝。三段目四枚目まで上り詰めた経験もあるだけに復活に期待だ。



田○(寄り切り)●銀熊



森倉○(寄り切り)●桃天龍



笹熊○(寄り切り)●逆本

先場所引退して九十九を継承した生駒山が自身の名を冠した耀池田、耀井上の2力士を送り込んだが残念ながら負け越し。今後の新弟子に期待だ。(鹿)

古今東西

紙相撲豆知識 65 連続優勝昇進

大関西神門が先場所今場所と連続優勝を果たし、第28代横綱に推挙された。

横綱昇進の基準として2場所連続優勝あるいはそれに準じる成績、としながらも実際に連続優勝で昇進したのは富士登、扇灘、鬼錦、千代鈴に次いで5人目と以外に少ない。

平成以降、横綱に昇進した時の成績は次のとおり。

西神門	直前場所	10勝2敗	◎◎
大神楽	直前場所	10勝2敗	◎◎
千代鈴	直前場所	10勝1敗	◎◎
春ノ翔	直前場所	11勝2敗	◎◎
美空富士	直前場所	11戦全勝	◎
若ノ嶋	直前場所	10勝3敗	◎
蛮勇	直前場所	9勝2敗	◎◎
鞍ノ城	直前場所	10勝1敗	◎◎
虎の富士	直前場所	10勝1敗	◎
英	直前場所	8勝3敗	◎
鬼錦	直前場所	10勝2敗	◎◎